

豆打式(2月3日)

宗 像

一月三十一日

前日二十九日に氏子青年会、観光協会の奉仕により本殿横に特設舞台を設置、又齋館前のイベント会場には出店ブース、ステージ等が設けられ、参拝者の受入れ態勢が整えられた。

一月三十一日午前十一時、豆打式は少雨の天候にも拘らず、一時間前には今か今かと待ち構える参拝者が押し寄せた。



鳴弦の儀(2月3日)

一月三十一日と二月三日、四年目を迎えた宗像観光協会(吉武邦彦会長)との共催による「おなかつた大節分祭」が行われ、「福」を授かるうとする参拝者約四千人が両日で参集し、寒さを感じさせない熱気で賑わった。

おなかつた大節分祭

一月三十一日、二月三日の
両日で約四千人が参集

遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

3月祭事暦

毎月1・15日	月次祭
午前10時~	高宮祭
	第二宮・第三宮祭
	宗像護国神社祭(1日)
午前11時~	総社祭
	浦安舞奉奏(1日)
	豊栄舞奉奏(15日)
4日	氏貞公墓前祭
午前11時~	於=宗像市上八氏貞公墓前
	本年は神式で斎行
19日	松尾神社祭
午前11時~	於=境内松尾神社
21日	皇靈殿通拝式
午前10時~	

立春を過ぎるとそろそろ雛人形の飾り付けを始める季節となる。一般に「雛祭り」「桃の節供」と云われる「上巳の節供」は江戸幕府が定めた式日では五節供の一つであった。起源は諸説あり判然としないが、その歴史は大変古く中国で三月最初の巳の日に、水辺で飲酒し不浄を祓う招魂行事が行われていたようである▼日本にも早くから杯を流して詩歌を吟じて酒を飲む「曲水の宴」が伝わり、平安時代には「上巳の祓い」といい、人形で体を撫でこれを川に流すといった季節の節目に穢れを祓う大切な行事であった▼流し雛の習慣は現在でも各地でみられるが、雛人形を美しく飾るようになったのは江戸時代からとされている。このように古くからの慣習が時代と共に変化することは自然なことであろう▼今日、少しブームは去ったものの「の」の品格「の」のしきたり」と云った類の書籍をよく目にする。様々な年中行事や慣習が見直されているのか、これらの本はよく売れていたようである▼例えば恵方巻のように販売戦略によって地方の風習が全国に広められることは多いが、我が国の美しい伝統・文化は祖母・両親からも意義と共に正しく伝えられるべきであろう▼ある雛人形師によると子供の健やかなる成長を願う親の心に変わりは無く、この不況下でも雛人形の注文数は変わりないという。(長)

神具・装束・授与品

井筒

兼東店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



豆打式 (1月31日)

定刻、昇殿参拝後、神職と共に地元宗像に拠点をおくプロラグビーチーム「福岡サンツクスブルース」の選手や、観光協会メンバーの中から選ばれた方々が特設舞台上がり、先ず子供達への豆打式が行われ黄色い歓声が神苑にこだました。引き続き一般参拝者の豆打式が入場制限を行いながら二回撒かれた。

午後二時から同様に豆打式が行われ、雨脚がさらに激しくなる中であつたが、寒さを感じさせない熱気でさらに賑わいをみせた。

参道には世界遺産暫定リスト入りした「沖ノ島」を、より多くの皆様に知っていたらこうと専用ブースが設けられ、齋館前では同協会による様々な露店が出店され大盛況であつた。なかでも冷えた体を温めようと「つみれ汁」コーナーには長蛇の列が出来ていた。

**二月三日
節分祭斎行**

二月三日は肌寒さを感じる陽気であつたが晴天に恵まれ、午前十一時災難消除を願う節分祭が古式に則り本殿で斎行された。

ステージでは玄界高校邦楽部による「玄界太鼓」、福岡教育大生によるミニコンサートも催され、節分の神人和楽の賑わいに花を添えた。

責任役員、氏子会、地元総代に加え、年男にあたられる方、風の子・平等寺・日の里東の三保育園の園児約一〇〇名が参列する中、高向宮司が無病息災・延命招福の祝詞を奏上。続いて拜殿上左右二手に分かれた神職により追儺の神事「鳴弦の儀」が執り行われた。二人の神職が桃弓・葦矢を携えて、一人は天空に向け、もう一人は地上に向けて矢を三度射る所作を行い、次に弦を三度打ち天地の邪気を祓い清めた。その後宮司、氏子会安部会長が各々玉串を捧げ今年一年の厄除開運を祈念した。

祭典後は神職と年男が本殿西側に設営された特設舞台上移動、平日にもかかわらず詰め掛けた大勢の参拝者が待ち受ける中、葦津禰宜による「鬼は外、福は内」の発声と共に福豆がまかれると、本殿周辺は瞬く間に熱気に包まれ、各々福運を手にした。

福豆を拾われた参拝者は、齋館前のテントで当たり券を品物に交換し、振る舞われた温かい「ぜんざい」をいただき、満足そうな様子であつた。



スターフライヤーの客室乗務員さんも豆を撒かれました (2月3日)



豆打式 (2月3日)



賑わった「節分厄除みくじ」 (1月31日)



玄界高校生による和太鼓奉奏 (1月31日)



福岡教育大学生によるミニコンサート (1月31日)



福運を授かるうたとされる参拝者(2月3日)



撮るまわれた「つみれ汁」をもとめる参拝者(1月31日)

今年の節分祭は当大社と観光協会で袋詰めを行った凡そ六万袋の福豆が撒かれた。福豆のなかには、北九州市の航空会社「スターフライヤー」から協賛された東京・北九州間の往復航空券や、幻の高級魚と称される「アラ」の鍋セット、宗像の野菜、生花などの特産品や、道の駅「むなかた」のお買物券に加え、当大社からは「節分厄除みくじ」の一回無料券や、神宝館の無料拝観券を協賛し福豆に付けられた。

本年も観光協会が中心となり、当大社氏子青年会、宗像歴史観光ボランティア、福岡サニックスブルース、玄洋むなかた、沖ノ島物語実行委員会などの諸団体に助成いただいたほか、道の駅「むなかた」、スターフライヤーにも特別協賛を賜った。御奉仕いただきました各団体各位には衷心より御礼申し上げます。

建国祭齋行



二月十一日午前十一時、本殿で我国の誕生を祝う建国祭が厳粛に斎行された。生憎の雨模様となり、祭典時にはさらに雨脚が強くなったが、定刻には多くの参拝者が見守る中、奉仕神職・巫女、参列者が参進、所定の座に着し祭典が始まった。

現在でもこの日には、全国各地で様々な神事や式典等の奉祝行事が行われているが、奉祝反対の集会も目立って行われている。何処の国に於いても国民は誇りを持って国の

神武天皇建国以来の国体護持と皇室・国家、国民の弥栄を祈念し祝詞を奏上、続いて巫女による浦安舞奉奏、各代表者が玉串拝礼を執り行い、祭典は滞り無く終了した。今年には昭和四十一年に「建国記念の日」が制定されてから四十四年目となる。「日本書紀」では辛酉の年春一月一日、神武天皇が大和の橿原の地に即位式を挙げられた日で、太陽暦の採用に伴い現在の二月十一日となり「紀元節」として我が国の誕生の日と制定され大東亜戦争敗戦により廃止される迄、全国に拡がっていた。



建国を祝い、文化を継承して行く。日本人はこの「建国記念の日」の意義を各々充分に認識、世界でも有数の文化・歴史・伝統を持つ我が国を世界に示し、亦、子孫に継承していかなばならない。

第36回
宗像大社防火訓練
 晴天の中、関係各機関より約百十名が参加

文化財防火デーの一月二十六日、恒例の防火訓練が宗像大社自衛消防隊、宗像地区消防本部、宗像市消防団、宗像警察署(地元四駐在所)など約百十名が参加し行われた。

天候に恵まれた当日午前九時五〇分、本殿裏の森から出火、国の重要文化財である本殿・拝殿に火勢が迫っているとの想定で開始された。火災を発見した巫女が拝殿

の強風にあおられ、祈願殿に延焼拡大したとの想定で一十九番通報。通報を受けた宗像地区消防本部、宗像市消防団の各消防車両がサイレンを鳴らしながら第一駐車場に集結。各隊、統制のとれた動きで配置につき、一斉に祈願殿屋根に放水を開始。本番さながらの消火活動を繰り広げた。

また訓練終了後には、宗像地区消防本部による当大社消防設備への査察も行われ、老朽化したホース等一部を新しくする予定である。当大社が収蔵する貴重な文化財を後世に伝える為にも、今後も消防設備の充実、職員の防火意識の向上を今まで以上に図らねばと思う。

火災報知器を押し、社務所に通報。職員は本殿に駆けつけ、巫女と宗像市女性消防団がバケツリレーを開始、神職は地元消防団とともに消火栓から放水を行い初期消火にあたった。午前十時には折か

この文化財防火デーは、昭和二十四年(一九四九)一月二十六日、世界最古の木造建築である法隆寺金堂の壁画が焼損したことを契機に、文化財

保護のため、さらに一年の内で一・二月は最も火災が発生しやすい時期であるという事で、昭和三十年に定められた。当大社では昭和四十六年に斎行された「昭和の大造営」を機に毎年実施するようになり、各関係機関と連携し文化財防火デーに実施し今年で三十六回を数える。



本殿裏へ放水



当大社巫女と女性消防団によるバケツリレー



高向宮司による講評



祈願殿での訓練の様子

宗像大社菊花会・(社)全日本菊花連盟九州地区 新年総会並菊作り講習会を開催

一月二十四日(日)、当大社清明殿において宗像大社菊花会の新年総会が開催された。

今回からは新年総会に併せて、九州の各支部にて行われていた(社)全日本菊花連盟九州地区菊作り講習会が宗像において毎年行われることとな

り、千々和正信会長以下例年より多い約八十名の会員出席のもと開催された。

宗像大社菊花会の新年総会では、第三十九回大会の報告が行われ反省や改善すべき点の意見が多々出されたが、それらの意見を集約し千々和会長が「作る側も運営する側も宗像大神様の為」という敬神の気持ちを含めて、それぞれの役目に取り組んでい

ただきたい」とまとめられた。出席者は菊花展の意義というものも再認識することができ、今後の運営に大いなる意味をもたらす言葉であった。

さらに第四十回大会が節目の記念大会になる為、四月の三役会・理事会では実行委員会を立ち上げ事業計画を練ること、行事日程等が決められた。

総会終了後、全菊連九州地区菊作り講習会が三部に区切って行われ、一・二部では数々の受賞歴をもち菊作りの大家

である二氏に講師を依頼した。第一部は和田太義氏(山口宇部菊花会)による「私の懸崖作り」、第二部は時田義光氏(鳥栖菊友会)による「私の大菊作り」と題した講義が行われ、土作りや挿し芽の時期、肥料の分量などの詳しく丁寧な話に受講者は非常に熱心に聞き入っていた。

第三部では宮地隆治氏(全菊連・常務理事)による「公認審査員の心得・全菊連の現状と課題」と題した講義が行われ、年々減少している全菊連へ会員の勧誘や会員ならではの魅力が紹介された。

講習会終了後は会場を魚屋本館(神湊)に移し、恒例の新春懇親会が開かれた。当大社高向宮司に、当大社菊花会と観光協会の吉武会長も出席され、会員は互いの菊作りや第四十回の記念大会をどのようなものにするかなど尽きることのない話題に花が咲いた。

尚、今年の第四十回大会は十一月一日(月)～二十二日(月)までの開催日となっております。今秋も是非菊花を愛でにご参拝下さい。

の魅力が紹介された。



春まつりの御案内

春季大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘いの上御参拝下さいますようお願い申し上げます。

- 三月三十一日(水) 午後五時 総社地主祭
- 午後六時 宵宮祭
- 四月 一日(木) 午前十一時 一日祭
- 二日(金) 午前十一時 二日祭(海神神事・功労者表彰)
- 午前十一時四十分

- 宗像護国神社
- 高宮祭
- 第二宮・第三宮祭
- 交通安全講社祭
- 献茶祭(南坊流)
- 吟詠大会(鶴洲会)
- 三日(土) 午後二時

平成二十二年 宗像大社 海洋神事奉賛会 初会合

一月二十六日、宗像大社海洋神事奉賛会の初会合が当大社にて開催され、村田繁美会長をはじめ各漁協代表の方々十名、当大社より高向宮司以下九名が出席し、本年の海洋神事に関する審議がなされた。

当日は会合に先立ち本殿で大漁祈願祭が斎行され、一年



の大漁満足・海上安全が祈念された。

会合では先ず昨年の皇室への若布献上の報告が行われ、次いで本年の業務担当である壹岐権禰宜の紹介があり業務が引継がれた。また献上時の漁協代表随行者は、宗像漁協大島支所と鐘崎漁協から選定頂くことが決定した。

次に昨年の「みあれ祭」について審議され、安全性を考慮した縦一列での神幸と、定刻の神湊港到着のため昨年より出発時間を早めたことを本年度も継承する事が確認された。その他にも活発な議論が交わされ初会合を終えた。

尚、皇室へ献上される若布は地島沖で採取されるが、今のところ順調な生育をみせ本年は二月下旬から採取を開始し、三月中旬に献上される見込みである。

沖ノ島の立体(3D)映像を上映

祈願殿で約七十名が体験

九州大学大学院 芸術工学府 芸術学専攻 吉村康宏

九州大学の金大雄研究室では、二〇〇七年度より「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の啓発活動の一環として、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議と共同研究という形で映像制作を行ってきました。

今回は上陸が制限されている沖ノ島の価値をより多くの方に直観的に理解していただくために、実際に現地で実物を見ていくかのような臨場感のある立体映像とその展示シス



テムを提案させていただきました。

展示システムはコンピュータグラフィックス(以下CGと呼ぶ)で再現した沖ノ島を表示するタッチパネルと、島内の八箇所を撮影した立体映像を表示する立体テレビで構成されています。体験者はタッチパネルに触れることで、CGで再現された沖ノ島を拡大縮小、回転させるなどの操作を行い、偏光メガネと呼ばれる特殊なメガネをかけ、タッチされた場所で撮影された立体映像を立体テレビで見ることが出来ます。

一月二十八日には宗像大社 辺津宮祈願殿内にて、主に車載の参拝客を対象に検証実験を行わせていただきました。午前十時から約六時間の間に、平日にも関わらず七十名前後



の方に体験していただき、そのうち四十名の方にはアンケート調査にご協力いただきました。

アンケートでは、「沖ノ島の自然や祭祀遺跡を構成する巨岩の圧倒的な迫力を体感できた。」「難しい説明ではなく、イメージとして見る事ができるので、頭に良く残りました。また、沖ノ島に上陸できない女性からの反響の大きさも印象的でした。この検証実験で得られた貴重な意見を参考に展示システム の改良を重ね、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の文化的価値の理解促進に少しでも役立てることができれば幸いです。

最後になりましたが、我々の研究活動にご理解ご協力をいただきました宗像大社、そしてシステムを体験していただいた参拝者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(続)

宗の寄物

243

いしただし



漂着物にあまり関係はないが、私の家に三十枚ほどの戦争画の絵ハガキがある。子供

の頃から幾度も出しては見てきた。絵ハガキには第二回大東亜戦争美術展覧會出品とあり、戦争画である。今年(二〇一〇年)一月二十三日、NHKの衛星放送「さまよえる戦争

画・従軍画家と遺族」の再放送があった。

戦時に画家を動員して、中国、満州、東南アジアや太平洋での戦いを描かせたもので、国民の戦意高揚を目的としたものというが、単なるプロパガンダと見る人もいるし、当時一流の画家が描いたものであり、歴史的・芸術的

作品と評価する人もいる。戦争画には賛否両論がある。これが展覧會として各地を巡回し、福岡でも開催され、記念ハガキが販売されていたのである。

放送は二時間と長時間で、戦争画の紹介、既に多くの画家が亡くなり、現存者も高齢であった。遺族たちにもインタビューをしていく。その中で「公開すべきではない」。

芸術性も高いので公開してもいいのではないか」という意見もあった。この戦争画は現在一五七点ほどあるが、米軍の占領とともに接集されて空軍博物館に収蔵されていたのを、返還され国立近代美術館で保管、少しずつ補修されながら、美術館で公開する予定だった。が、中止されたという。

理由は近隣諸国の感情を害するということであつた。しかし、年に五、六点ずつ展示をし、現在十点左右が未公開という。こうして部分的な展示で全点を一堂に展示することは行われていない。

絵葉書の戦争画の画家をみると、宮本三郎や小磯良平から、あの世界的画家で戦後フランスに帰化した藤田嗣治もいる。彼は多くの戦争画を

残している。また宗像市出身の中村研一のものもある。これらの戦争画が描かれた時期は緒戦の勝利が圧倒的に多いが戦局の悪化と共に、「提督の最期」とか、白兵戦の作品も出てくる。一流の画家の絵には臨場感もある。

昭和十二年生れの私は、十代後半まで戦争の時代であつた。生れた年は中国盧溝橋事件がおこり、日中戦争の発端となつた。十四年にはノモンハン事件でソ連軍と交戦、十六年十二月には太平洋戦争がおこつた。四年間の長い戦い、緒戦こそ勝利だったが翌年十七年にはミッドウエー海戦の大敗北、以後戦局は玉砕、特攻作戦、学徒動員、一億玉砕のスローガン。二十年六月にはB29の福岡大空襲。私



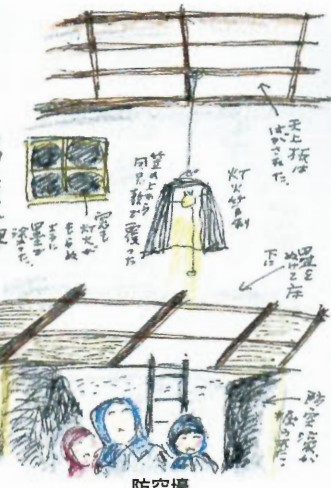
感もある。

昭和十二年生れの私は、十代後半まで戦争の時代であつた。生れた年は中国盧溝橋事件がおこり、日中戦争の発端となつた。十四年にはノモンハン事件でソ連軍と交戦、十六年十二月には太平洋戦争がおこつた。四年間の長い戦い、緒戦こそ勝利だったが翌年十七年にはミッドウエー海戦の大敗北、以後戦局は玉砕、特攻作戦、学徒動員、一億玉砕のスローガン。二十年六月にはB29の福岡大空襲。私



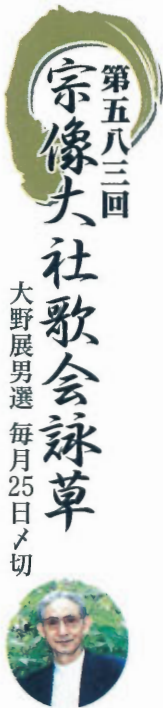
B29 大空襲

後戦局は玉砕、特攻作戦、学徒動員、一億玉砕のスローガン。二十年六月にはB29の福岡大空襲。私



防空壕

が通つていた大名小学校も焼けた。高空を白い飛行機雲を残して飛んでいるB29に戦き、防空壕に出たり入ったり毎日、八月六日、広島に新型爆弾が落ちたと、母や兄が語つていた。八月十五日の玉音放送、井戸端で水遊びをしていて気がつくとラジオの前で母や兄姉たちが頭をさげて泣いていた。敗戦、米軍が博多に上陸という噂に浮羽へ疎開、戦後の大混乱、食糧難、ひもじい毎日だった。昭和二十五年六月朝鮮戦争がおこり、板付飛行場から連日米軍戦闘機が飛びたち、街は米軍の赤十字車がサイレンを鳴らして走り回り、金へんブームで友達と金属拾いをする毎日だった。二十八年休戦、冷たい戦争とつづいていく。



大野展男選 毎月25日メット



第五八三回 宗像大社歌会詠草

宗像市 土穴 山本 静子

何とりに来たのかと問ふ吾ありて分らぬと答えし吾引き返す
歌材としては新しくないが、二人の吾の問答めいた
表現が独自であり透逸の出来映えである。

福津市 中央 池浦千鶴子

富士の山描かむとして机上なる広めの和紙に筆を下ろしぬ
絵の書き初めの歌。三、四句は「広げたる手漉きの」と
した方が、生活感情がぐつと出る。好きな一首だ。

北九州市 八幡西区 吉田ウト子

悲しみに互に触れず初生りの金柑ふつつ時かけて煮る
悲しみを待つが故に人は人らしく生きていたのだと
言うことを示した一首。下句の具体がいい。

宗像市 田久 巻 桔梗

平均がこそより一つ上がりたり短歌大会の応募者の歳
(今年の平均は七十・八歳)引き続き大会事務局長としての一。出詠
者が固定化した喜びと、高令化する不安が緋い交じた気持ちが見える。

福岡市 荒戸 相良 公子

眼れぬ夜酔えば酔うほど浮かびくる逝きし子の顔別れし子の顔
素直に気持を吐露している。そこに感動が生れていい。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ

写真の夫目の前にある次男の顔額のひろさ同じ位か
視点がいい。一、二句「うつしえのつま」と読み仮名を付けれ
ば「顔」は不要で定型となる。歌は定型が一番大切である。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

マスクかけ歩く姿の人多し何か異常な街の風景
物事に敏感すぎる日本の風潮に対する一針の皮肉。

宗像市 日の里 大和美由紀

大根を洗ひて掛けし三十本朝の日差しに白のまぶしき
働くよるこびが見える一首。

北九州市 八幡西区 遠藤 幸子

ふるさとの友にあひたる心地してかがまりて見る小道のすみれ
草にまつわる思い出が沢山ある作者だろうやさしさが好ましい。

拙なくも生きる証しと歌つくる今日の倅せ文字に託して
歌に生甲斐を持つ作者ならではの一首。結句は「三首出来
たり」とした方が四句迄の気持を支え得る力があるのでは。

宗像市 田野 森 甲子

はつ春の博多より戻り穏やかな玄界灘の返照眺む
騒から寂の生活に心やすらぐ作者だから歌が生まれるのである。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

風止めば結晶の形さまさまに雪は舞ふなり書斎の窓に
雪を染しむ南国らしいひととき、初句の「ば」止めは
一寸疑問である。

福津市 若木台 野間 精一

としのうちに春は来にけり紅椿二輪ひらきぬ天皇誕生日
作者らしい奉祝歌、それゆゑの二句以下の各句で切
れか、それにしてもリズムが悪い。一句以下「春は来
にしか紅椿二輪がひらく」としたらいいか。

宗像市 浮羽町 向 則正

窓ぎはのシクラメンの花柔らかき冬日あたりて紅の浮きたつ
南国らしい穏やかな一日である。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

新年の七日を窯だし土捏ねるこの境涯を選びてきびし
陶工を生業としていたる人を詠ったのか、とすると工
程としての終りの窯出しと、はじまりの土捏ねを同
時にするのは疑問符が付く。

福岡市 南区鶴田 井田有久衣

神杉の繁れる参道ゆつくりと木漏れ陽を背に玉砂利を踏む
細かく述べすぎて説明的すぎる。短歌は省略の文学
であることを忘れずに。

福岡市 南区柏原 加野シノブ

嵯峨野重京の料理の目に樂し宙に浮かせる手に箸を持ち
正月の料理を目の前にしての浮き立つところであ
る。結句「箸を持つ手」を直した。

選者詠

蹲つくばひの水には奇らず雨過ぎし溜り水飲む鴨もつくぐみも
ちちと啼く声よるこびの声ならむ庭木伝ひに目白すぎゆく
一輪の椿ひらけば目白きてしばらく遊ぶ花をつつきて



宗像市 平井 占部 詩子

年賀状虎の雄叫び乗せて来る
宗像市 光岡 白土 凌一

初日の出雲が掛りて顔かくす
うぐいすのとまりし梅にも春が来る

編集後記

四歳になる長男とようやく会話が成立するようになってきました。意思疎通に加え、数字やひらがなも理解しはじめ、自我も芽生えつつあります。先日は愚息の通う幼稚園で生活発表会が行われました。年少のさくら組は「ぶんぶん茶釜」で愚息は古道具屋の役でした。成長の早い子、遅い子、泣き叫ぶ子、様々で楽しく拝見しました。我が子の落ち着きのなさが目につきました。園長先生の「帰ったら一切全てを何度も何度も褒めてあげて下さい。それが次の意欲や成長に繋がります」との挨拶に、褒めることをしていない自分を反省しました。全く読んでいなかった幼稚園のパンフレットにも目を通しました。年少さんの教育目標は「友達と遊べるようになる」「集団生活には決まりがあることを知る」が主だったところでした。何か大人にも通じるような：▼宗像大社で御奉仕させていただき、「お父さんはお宮(で働いている)」「今日はお宮行くの?」と、会社や仕事ではなく「お宮」という言葉を口にする愚息にどうみられているのか段々気になってきました。(塚)

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延
制作 ゼネラルアサヒ
印刷 ゼネラルアサヒ

宗像大社事務所
発行所 宗 像

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円